

D | 舌態 (ぜつたい)

舌態とは、舌の動態であり、以下のようなものがある。

1. 強硬 (きょうこう)

舌体が板状硬となって強直し動きが悪いもので、呂律がまわらず発音も不明瞭となる。「舌強」とも称する。

基本的には邪実が主体であるが、成因は大きく外感と内傷に分かれる。

外感病では、熱入心包の心神擾乱で舌を主宰できなくなるか、高熱傷津で舌の筋脈^{じゅうやく}を濡養できないため生じる。内傷病では、肝風挾痰で舌絡を阻塞するか、肝陽上亢で舌の筋脈が灼傷を受け濡養されないために発生する。いずれの場合にも、舌体の動きの円滑性（神経系を介する）と舌筋の柔軟性（器質的変化）が消失あるいは低下したために、強硬になるのである。

熱盛によるもの（熱入心包・高熱傷津・肝陽上亢）では舌質は紅絳であり、痰濁を挟む場合には舌質は胖で厚膩苔を呈することが多く、肝風による中風や中風の前兆では舌質が淡紅か青紫を示すことが多い。

強硬	熱盛	紅絳舌
	痰濁	胖舌・厚膩苔
	中風	淡紅舌・青紫舌

2. 痿軟 (いなん)

舌体が弛緩して軟弱となり、伸出する力がなく動きも悪いものである。「痿軟舌」ともいう。

基本的には正虚^{じゆう}が主体であり、気血陰液の不足により筋脈が濡養されないために痿軟となる。写真⁵⁶

急性病では熱灼傷津でみられ、舌質は紅で乾燥している。

慢性病では、舌質が淡で痿軟は気血兩虚を、舌質が絳で痿軟は陰虚をあらわすことが多い。

痿軟	急性	熱灼傷津	紅舌・乾燥
		慢性	気血兩虚
		陰虚	絳舌



56 痿軟舌・偏淡紅，苔少
気血兩傷